

推薦します

驚嘆すべき研究書

鎌田 慧

天皇の「玉音」放送からはじまった日本の戦後は、北東北のちいさなわたしの町にも、「解放軍」といわれたカーキ色の米兵を乗せたジープとともにやってきた。走り去ったジープからチュウインガムがバラ撒かれ、それを拾った恥ずかしい記憶がある。それはほとんど全国に共通していた情景で、平和と民主主義の始まりと信じられてきた。この本にはそれら表面の華やかさとはまったく別の、隠された戦後の事実がぎっしりと詰まっている。わたしは自分の認識の甘さをいやというほど知らされた。

「M資金」に象徴されるように、旧日本軍の軍用物資は「隠匿物資」として横流しされたとは伝えられてきた。が、実は膨大な旧軍の武器弾薬は管理を放棄されて町や村で暴発して、甚大な被害をもたらしていた。安全無視の弾薬処理ばかりか、米兵の無謀運転、暴行、銃撃、戦闘機の墜落事故は沖繩ばかりではなかった。朝鮮戦争への労働者の派遣、レッドパージ、労組弾圧、そして「共産主義の防波堤」としての自衛隊の創設から日米同盟。いま、敵基地攻撃能力の保有を押しつけるまでに至った米軍支配の全貌が、資料ばかりか実地調査で、詳述されている。渾身の一書。

(かまた・さとし ルポライター)

占領軍 被害の 研究

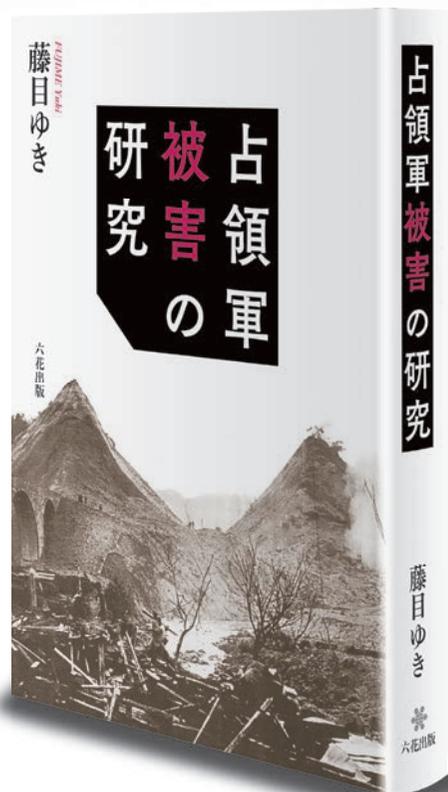
敗戦と戦後復興の間に
暗渠のように埋没した
連合軍による人身被害。
無防備な市民へのさまざまな形での
暴力を掘り起こし、
平和と民主主義をもたらし、
米軍の占領政策の手本と
いわれた日本占領の現実を
明らかにする。

藤目ゆき ● 著
FUJIME Yuki

2021年
12月刊行!

A5判・上製・416ページ
定価 5,600円+税 (税込6,160円)
ISBN978-4-86617-157-9

電子書籍版も同時刊行! 詳細は弊社HP電子書籍の案内ページをご覧ください



第一章 研究の意義と方法

第一節 占領軍人身被害を研究する意義

- 1 大戦の最終段階としての占領
——「八・一五終戦」神話からの脱却
- 2 冷戦体制形成期としての占領
——「占領モデル」論・朝鮮戦争神話からの脱却

第二節 全国調査員労働組合の被害実態調査ファイル

- 1 全調査員ファイルとはどのようなものか
被害を受けた場所
- 2 被害理由・時期・被害者の属性

第三節 在日朝鮮人の占領軍人身被害——不可視化される被害

- 1 戦時強制労働から占領軍労働へ
- 2 占領軍の輪禍に遭った朝鮮人の子どもたち
- 3 治安対策の対象とされた在日朝鮮人

本書の構成

第二章 日本軍武器弾薬処理に伴う人身被害

第一節 日本軍武器弾薬処理はどのように実施されたか

- 1 占領軍側からの総括
- 2 日本政府による武器弾薬の隠匿
- 3 日本政府による武器弾薬処理責任の回避

第二節 占領初期の事件

- 1 小樽沖の被害
——九月の機銃弾爆発から一二月の真岡丸遭難まで
- 2 鹿屋市郷之原の爆発事件
- 3 二又トンネル爆発事件

第三節 武器弾薬処理被害の広がりと「見舞金」体制の始まり

- 1 人身被害の全国的広がりに
- 2 武器弾薬処理に伴う人身被害の諸相
- 3 帝国議会にて語られた日本軍の遺棄武器弾薬の危険性
- 4 公文書にみえる日本政府の爆発被害認識

第四節 見舞金体制の成立

- 1 終戦連絡中央事務局(CLO)からGHQに宛てた
一九四五年一月中旬の照会文
- 2 見舞金措置を決めた一九四六年五月の閣議決定
- 3 見舞金支給の実状

第三章 占領軍労働員と労働災害死傷

第一節 初期の占領軍労働員

- 1 延長された戦時労働員システム
- 2 占領初期の労働員と労働災害

第二節 労働民主化と新たな労働員システム

- 1 占領下の労働改革
- 2 間接雇傭

第三節 占領軍人に殺傷される労働者たち

第四節 終戦処理費の軍事化と労働者の制限

- 1 終戦処理費の軍事化
——各所に構築された大規模な軍事施設
- 2 労働者の制限——占領軍労働運動と国家公務員法
- 3 ある労働組合員の経験

第五章 朝鮮戦争と占領軍労働

- 1 朝鮮戦争開戦前からのレッドパージと占領軍労働の軍事化
- 2 機密扱いになった朝鮮戦争下の占領軍労働
- 3 朝鮮戦争下の「特殊」業務で死傷した船員たち
- 4 「特殊港湾荷役」に従事した労働者たちの死傷

第四章 暴行・傷害・殺人

- 第一節 暴行・傷害・殺人の諸相
- 第二節 危険運転による殺傷
- 第三節 過剰な権力の行使
- 第四節 被害者・遺族の憤りと嘆き
- 第五節 軍事裁判

第五章 軍事演習被害・朝鮮戦争被害

第一節 軍事演習による市民の死傷

- 1 日本の非軍事化・民主化と無縁な軍事演習
- 2 理由不明の死を招く射撃演習
- 3 冷戦政治によって隠蔽された演習被害

第二節 開拓農民の占領軍被害——宮城県玉城寺原演習場

- 1 大日本帝国陸軍からの解放と開拓の開始
- 2 米軍占領下の女性被害
- 3 朝鮮戦争時代の人身被害

第三節 飛行場占領軍に起因する人身被害——岩国基地と軍機被害

- 1 占領軍の航空基地・射撃場となった岩国
- 2 豪空軍・米空軍の朝鮮戦争出撃と軍機被害
- 3 岩国とその周辺に相次いだ朝鮮戦争下の事故・事件

第四節 占領軍機被害と見舞金体制

- 1 朝鮮戦争開戦前の軍機被害
- 2 続く朝鮮戦争——続発する軍機事故
- 3 占領軍被害問題の公論化

第六章 占領軍人身被害補償運動の歴史的意義

第一節 二又トンネル国家賠償請求訴訟とその行方

第二節 講和・安保体制の下で始まった各地の占領軍被害者運動

- 1 呉市進駐軍被害者連盟
- 2 東京進駐軍被害者連盟と西日本地区進駐軍被害者遺族会

第三節 全調査の占領軍被害実態調査

- 1 平和と民主主義を志向する公務員労働運動
- 2 全調査と占領軍被害補償運動

第四節 全国進駐軍被害者連合会と補償法制定運動

- 1 全国進駐軍被害者連合会の結成
- 2 占領軍被害補償運動の高揚——一九五八〜一九六二年

著者紹介

藤目ゆき(ふじめ・ゆき)
一九五九年生まれ
大阪大学人間科学研究科教授
主要著書◎『性の歴史学——公娼制度・堕胎罪体制から売春防止法・優生保護法体制へ』不二出版一九九八年／『女性史から見た岩国米軍基地』ひろしま女性学研究所二〇一〇年／『慰安婦』問題の本質』白澤社、二〇一五年

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。
お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(6266)8787

Fax 03(6266)8788 電子メール info@rikka-press.jp

発行 二六花出版 著 藤目ゆき

占領軍被害の研究

定価●六、一六〇円(税込)

ISBN978-4-86617-157-9

注文カード

帖合・貴店名

〈八木書店経由〉

注文数

お名前

お電話番号

注文 年 月 日